

## 御本山団体参拝

願船坊  
だより

# || かけ橋 ||

第 32 号

編集・発行

願船坊

R5 年 5 月



## 第二回 父と私

前回より、父（前住職）と私のことについて、書かせて頂いております。今回は、幼少期の私と父のことです。

これは、あるご門徒様からお聞きした父の話です。

「あなたのお父様は偉い方だと思えますよ。それはブレないこと。これはなかなかできることではないです。誰でも、一度は方針を決めたことでも、のちに方針変更するものはあるわけです。この何についてブレないのが問題なのでしょうけれど。あなたのお父様は、音楽教育についての事でした。」

ここまで聞いた時、私には何のことか想像がつかまりました。

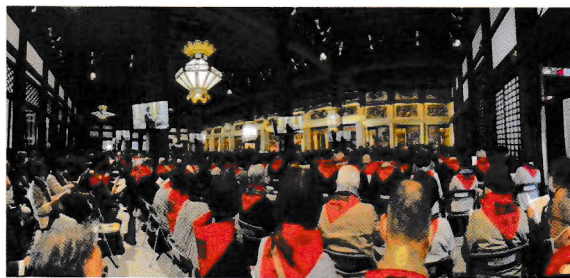
これは、父と私の恩師『斎藤秀雄先生』のことだったので。

父は、独自の考えで幼少より音楽教育を施していた八歳の私を斎藤先生の前に連れて行き、幸運にも先生からお褒めの言葉をいただきました。「この子の手はチェロを弾くのに向いている良い手をしているから、チェロ弾きに進ませてみたらどうかね？」大体このような内容と聞いています。のちに父がこのように言っておりました。「わしは息子にチェロを学ばせながら、同時に先生から音楽教育について勉強したい」

私は父の音楽教育の実験台のようなものであったと思います。私が中学生に上がる前に、先生から「中学になったら東京にきなさい。私が教えてあげよう」という事を言われたようで、躍起になって母（当時の願船坊の坊守、私の祖母）を説得して、やっと私が中学二年の二学期から、東京に出ることとなったのです。

《つづく》

以前、「食前のことば」が一新した際も、なかなか新しいものに馴染まなかった記憶がありますが、今回はそれ以上に大変なことではなかなかと、内心心配をしております。この次は、他のご門徒様とも親睦を兼ねて、本山参拝&古都を巡る旅行を計画しましょうと、今回参加された方々と帰りの車中で話したことでした。



## 秋供養・報恩講法要

十二月一日～二日まで、秋供養・報恩講法要を勤修いたしました。ご講師に、江田島の光源寺ご住職 海谷真之先生をお迎えし、御講題『今が旬です』ということで、お話を聞かせていただきました。

先生の好きな一句

『恋敵 ゆずればよかった いまの妻』

と、笑いを交えながら、また時々毒舌も有り、懐にスツと入ってくるお話は、眠気とはおよそ無縁のものでした。

どうしても自分の都合でものを見てしまう私。区別、差別をせずに生きていくことができないのが私。仏様のように分け隔てなく物事を平等に見る事はできない私がそこにある。

お浄土とは、さとし覚りの眼差しで見た世界。

覚りの世界のほうから、「私が私」の迷いの世界を越えてくれよと、物語で説かれている。

生きていくのに必要なものとして三つ挙げられるものは

①健康

②家族

③お金

でも、これらのどれも、いずれ手放していかなくてはならないものである。

目標を持って歩めるのは幸せなことであるけれども、老いと共にだんだんといろんなことができなくなる。お出かけも億劫になる。家の中の生活で一杯一杯になる。そして最後は一畳の布団が生活の範囲になる。

最後の一回の呼吸を吐いて、戻ってこない瞬間がくる。

その最後の一握みを緩めたとき、落ちていくのがお浄土だそうです。私と言うものを手放していく。でも、私を手放した時、大いなる命に抱きしめられていくのです。浄土をいただく人生を歩ませていただくのです。

死んだらおしまい的人生ではなく、お浄土に生まれる人生を。

お覚りをいただく、お覚りの身に生まれるんだよと聞かせていただく人生となる。

『南無阿弥陀仏をとなふれば(となえる)』

十方無量の諸仏は

百重千重圍繞(いによう)して

よろこびまもりたまふ(賜る)なり』

「なんまんだぶ」

その響きの中に、私を取り囲む無数の仏さま方。その中に懐かしい方々のお姿も感じながら、「目覚めてくれよ」との呼び声の中で、「あなたも阿弥陀さまに出遇えてよかったのう」と讃えられた、

今この瞬間の命を生かされている私でした、といただく。

鏡に映る私の姿は、もう旬の過ぎた姿かもしれないが、でも阿弥陀様からご覧になれば、今がいちばんの旬だと。

お浄土に生まれる、そのためのかけがえのない今こそ

呼び声の届いた

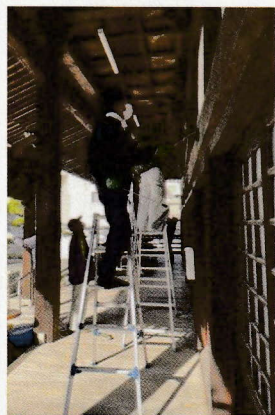
様々なご縁が満ちた

お育てが届いた

今が正に、人生の旬である、と教えていただくのではない  
でしょうか。

阿弥陀さまと出遇えた人生、それはこの私のことを、私以上に願  
っていてくださる方々の願いに、阿弥陀さまの姿を通して懐かし  
い方に出遇い、また懐かしい方々を通して阿弥陀さまの願いに出  
遇う。そういう一日一日を、共に重ねさせていただきます。

合掌



## おみがき&すす払い

毎年、報恩講法要の前には、仏教婦人会の皆様がお内陣の仏具を綺麗に磨いて下さる『おみがき』をして下さいます。

専用の磨き粉を使って、ゴシゴシと磨いていく作業は、かなり力のいることで、毎年のご奉仕に頭が下がります。少し汗ばむくらいに大変な作業ではあるのですが、皆様が楽しそうにおしゃべりしながら、手際よく次々と磨かれていった仏具は、光輝いて見えます。

また、仏教壮年会の皆様は、本堂の外陣や外縁の天井など、普段はなかなか掃除が出来ない高いところを、脚立に登り、はたきを使って『すす払い』をして下さいます。一年でこんなにもほこりが積もるのかと毎年驚くぐらい、ブルーシートの上が埃だらけになります。作業されている皆様の頭上にも・・・。

仏婦様、仏壮様、本当にありがとうございます。

これこそが無財の七施で、有難い行いであると感謝しております。

## ゆく年くる年コンサート

お寺では三年ぶりにコンサートを開催いたしました。

相変わらずのコロナの感染状況を気にしながらの開催決定でした。

そんな中でも、ご来場下さいました皆様に、音楽で心を温めていただけるよう選曲しました。また、ウクライナのような大変辛い日々をおくられている方々のことを思い、哀悼の意を込めての曲も演奏致しました。ゆく年くる年コンサートにつきましては、ご一緒にお配りさせて頂いております。広島北祖の新聞『法輪』に寄稿させて頂いておりますので、是非そちらにも目を通して頂きますと幸いです。

総代長の天野様をはじめ、沢山の方々のお力添えを頂き、コロナ禍でもコンサートが開催できましたこと、本当に「おかげさま」と感謝の気持ちでいっぱいです。

コロナが五類に移行され、皆様が安心して生活できる日々が戻ってきたように思います。お寺でも少しずつ、コロナ禍前の活動が出来るように準備していきたいと思っております。



コンサート後は皆様と除夜の鐘をうち新年を迎えました

## ☆お知らせ☆

夏供養・永代経法要（浅野執持師）

六月二十四日（土）朝席・昼席

（※一日法座です）

平和コンサート

九月十日（日）時間未定

仏教婦人会法座（檜崎一大師）

十月二十五日（水）朝席・昼席

（※一日法座です）

《再開しています》

☆仏教壮年会 毎月第二火曜日午後一時半～三時

☆仏教婦人会 毎月十六日 午後一時半～三時

お寺のホームページです。  
<http://www.gansenbou.com>